

教育民生常任委員会報告書

議 長	事務局長	次 長	書 記
			

会 議 日 時	令和3年4月23日（木） 午前8時30分 ～ 午後4時00分			
会 議 場 所	○議員控室 ○委員会室 ○議会図書室 ☒ その他（ 視察研修 ）			
出 席 者 数	委員 5名のうち出席者 5名			
出 席 委 員	委 員 長	古谷 幹夫	委 員	田邊 哲夫
	副委員長	武田 秀義	委 員	堀本 伸一
	委 員	水間 淳一		
事 務 局	局 長	長谷部 卓也		
説 明 者	オーテピア	山崎館長	中土佐町	教育委員会 今橋次長
付 議 事 件	◇視察研修			
	1. 午前：オーテピア高知図書館			
	2. 午後：中土佐町立美術館			
審 査 ・ 調 査	1. 館長を中心に説明を受ける。			
	①図書館振興に取り組むことの効果			
	○基礎的な面では教養・学力向上と情報格差の是正			
	○産業振興の資源 ○応用的には地域力向上			
	と言った幅広く多様で高度な効果があり、その効果を発揮するために「司書」の活用が重要であることを認識した。図書館は地域の可能性を広げる「知のインフラ」であると言う。副次的効果として			
	○文化と楽しさの提供 ○移住者・交流人口の増加			
	○交流の場・居場所（多文化交流） ○観光の魅力増大			
	が期待できるという。			
	②課題解決先進県における図書館			
	○従来型の図書館ではなく、県民市民の暮らしや仕事で起きる様々な課題解決を支援する図書館を目指しており、必要な情報の提供、司書によるレファレンスサービス、関係機関団体との連携・協力、情報リテラシー向上支援に取り組んでいるとの説明を受ける。			
	③市町村図書館及び県立学校等への支援			
	○協力貸出等の物的支援や市町村職員を対象とした研修事業等の人的支援により、県全体の図書館サービスの充実と職員の技術向上に努める。			

	○物流や情報ネットワークを整備することにより、図書館間相互協力の活性化を図る。		
	○東部・中部・西部の各ブロックの担当職員を置き、各市町村の状況等に応じた支援を行う。		
	○県立学校などへの支援		
	学校への支援：学校の要望に応じた図書の貸出		
	生徒への支援：ティーンズコーナーの設置、電子図書館		
	教職員への支援：データベースの提供		
	④事前質問事項への回答に関して		
	◆デジタル化と蔵書数と保管スペースの考え方		
	○デジタル化で蔵書の保管を減らすことは難しい。紙とデジタルのバランス化が重要。本棚まわりのスペースも重要		
	◆図書館におけるイベントの考え方		
	○イベントによって図書館の利用者を増やす効果は限定的である		
	○図書館の仕事は、本などの「資料」、データベースなどの「情報源（情報資源）」の提供がメイン。それらの資料や情報資源へ適切に案内する「レファレンス・サービス」が重要		
	○イベントというより図書館の活用法の講座が必要		
	◆あまり利用がないが今後重要なサービス		
	○今後データベースの活用は重要		
	以上の説明を受けた後で館内を詳しく案内してもらった。		
	2. 中土佐町教育委員会より説明を受ける。		
	最初に一昨年30周年を記念して作成したという設立経過を踏まえた映像を見せてもらった後		
	○これからの美術館に求められる機能 ○美術館運営体制について		
	○集客のための取り組み		
	を中心に説明を受けた。		
	昨年2月に新中土佐町立美術館基本構想を策定し、移転候補地を模索しているとのこと。		
	令和2年度入場者数は3,990人で内訳は地区外9割、地元1割の実状で、地元入館者を増やすことに力点を置いているとのこと。		
	報 告 日	令和3年4月30日（金）	委員長署名
			古 谷 幹 夫 